

F-REI 市町村座談会（川内村）議事要旨

1. 日 時 令和5年10月17日(火) 14:15～15:15

2. 場 所 いわなの郷体験交流館

3. 議 事

(1) 開 会

(2) 挨拶

(3) F-REI の取組紹介

(4) 意見交換

<テーマ> F-REI との未来の連携について

(5) 閉 会

【主な発言内容】

- ブドウの栽培において、木を切らないで除草できるロボットの開発や防除作業の機械化ができればよいと考えている。

- 当ワイナリーを栽培の実践的なフィールドとして活用する等、人材育成の拠点としてほしい。現在、福島大学の学生の受け入れや民間企業と連携した WSET (Wine & Spirit Education Trust: ロンドンに本部を置く国際的な酒類教育機関) の講座・試験等の活動も行っている。F-REI には、県内の大学、高等専門学校、ハイテクプラザ等と連携した地域産業の人材育成も期待している。

- 川内村の森林はアカマツが多いが、震災の影響で手入れが行き届かず、価値の高い建材とするのは難しく、パルプ材となってしまっているのが現状。

- 林業は、他の産業と比べて従事者の死亡率が高く、辛いイメージがあるため、若い人材の目が向かない。

- 林業は、水源を守るほか、土砂災害の防止にも重要であり、F-REI と連携できることがあれば協力したい。

- F-REI には、研究だけで終わらせず、社会実装につながるような取組をお願いしたい。また、F-REI が企業同士のマッチングの場となることも期待している。
- 人材不足等の問題については、開発者と使用者が積極的に意見を交換して解消につながればよい。
- 当たり前を当たり前と思わない視野の広い発想も必要であり、子供たちも含めて様々なことを考えていくことも必要。
- 自分もドローンの資格を持っているが、後継者問題を考えると子供たちがドローン操縦を体験できるようなフィールドがあるとよい。子供たちが科学に興味を持つことは、F-REI にとっても良いことと考える。
- 主にしいたけ栽培を行っているが、人材不足、資材の高騰により、収益面で厳しい状況にあり、業務改善が必要。
- しいたけ栽培において収穫適期を見極めるのは非常に難しく、見極めができる人材も不足している。F-REI には、収穫適期を見極める AI ゴーグルのようなアイテムの開発を期待している。こうしたアイテムは、福島県の名産であるキュウリ、ピーマン、トマト、果物等、他の農産物にも応用可能であり、熟練度を問わずに人材を活用することから、是非実現してほしい。
- 電気代の高騰が経営を圧迫しており、石炭火力より安価なエネルギーについて研究してほしい。
- 植物工場は、建屋の中での栽培のため農薬が不要で、肥料の流出もないことから環境負荷が低い。カーボンニュートラル化が実現できれば、環境に優しい栽培方法と言えるので、F-REI にはエネルギー分野の研究開発に期待している。
- 川内村には空き家が多いため、ぜひ研究者の方に住んでいただきたい。空き家・空き地バンクの登録はあっても実際に居住する人は少ない。空き家の利活用についての研究も期待している。
- 移住者の子供として、移住者と地元の住民の交流の場や卸先がなかなか見つからない川内村内の農家の支えとなれるよう、古民家カフェを立ち上げた。

- F-REI が掲げるスマート農業とは反対の立場となるが、自然や昔からある古いものを地域の魅力として伝える活動を行っている。
- F-REI がどのような機関であるか Web サイト等を調べたが、一般的に得られる以上の情報はなかった。地元にいるからこそその情報を得て、F-REI と一緒に何ができるのか考えたいので、このような座談会は大変貴重な場であると受け止めている。
- 今後、外部から研究者が来ると思うが、そうした外からの目線による地域の再発見や資源の発掘に期待している。また、F-REI で最先端の教育を受けて地元でさらに活躍できるような人材が地元から育ててほしいと考える。